



TITLE:

支部欄/ 通信

AUTHOR(S):

CITATION:

支部欄/ 通信. 天界 1936, 16(180): 232-238

ISSUE DATE:

1936-03-25

URL:

<http://hdl.handle.net/2433/167189>

RIGHT:

支 部 欄

京都支部・京星會だより (1月・2月)

○**觀望例會** 2月觀望例會は12月同様協會本部主催の天文講演會と合同して16日午後6時より、大阪毎日新聞社京都支局に於て開かれた。使用機械は13櫃反射經緯儀、11櫃反射經緯儀、10櫃經緯儀の3臺。いづれも會員が最近完成した新しいものばかりで完成披露會の觀あり。寒い内に拘はらない熱心な觀望者に満足と與へた。

○**會員狀況** 2月末京星會關係人員。顧問3氏、贊助員2氏、會員(京都市内居住)41名、贊同員(地方居住)11名、合計57名、準會員45名。

大 阪 支 部 報 (3月)

◆支部速報發行と花山天文臺見學

2月28日附にて3月7日の花山天文臺見學觀望會並に 京阪兩支部交歡懇親晚餐會の案内狀が發行された。續々と參加申込に接し盛況を呈した。當日は曇天で相憎觀望は不能に終つたが大阪支部員13名が、天滿橋京阪より15時半に出發した。歸阪したのは23時頃で花山に於ける數時間は全く愉快に過ぎされ、満場の人々は豫期以上の満足を得た模様であつた。

◆支部報第5號發行さる

3月8日附にて支部報用紙4枚に互り、談話室には通信文、二見浦の日出の時刻、北の星と題する文藝等で賑合つてゐる。因みに大阪支部員所有天文圖書調査は來たる4月末を以つて一先づ締切り、適當なる方法で發表されますから未回答の方は至急返事を寄せられたし。

◆3月例會(3月13日)開かる

例月の如く土佐堀 Y. M. C. A. の此度は A クラブ室で開かれ、會場は以前より廣くなり出席者の急増に備へられてゐる。19時半に天文談話會として開會され、先づ坂元左馬太氏の「反射鏡の球面と拋物面との數字的差異」(追つて天界にも發表)、西川英男氏の「私の觀測雜誌」、高城武夫氏の「時報に就いて」夫々圖表や寫眞實物に就いて講話をされ、質問にも答へられ一同稗益する所多大であつた。出席者20名、大朝・大毎記者松塚幸三氏の珍客の來駕もあつて盛會、尙例會事業に就いての相談も行はれ23時閉會された。

大 阪 支 部 報 告 (2月)

◆大阪にて草場星圖展覧さる

1月27日14時より、大阪朝日新聞社講堂にて、各種参考星圖と共に、曾つて草場氏の最初の星圖が新聞紙によつて紹介されて2年有半年後の今日、山本博士の校正を経て完成した世界に誇る星圖が展覧公開された。山本博士の星圖の變遷より、草場星圖の學術的美術的價值迄の、1時間半に亙る講演あり、熱心なる300人の聴衆に交じり、大阪支部員も10數名來會した。

◆支部報第4號發行

2月1日附にて支部報用紙3枚の内容にて發行された、支部本年度上半期の例会・事業の豫定發表あり、堅實な大阪支部の發展振りが觀取される。尙、支部報上で支部員所有の天文圖書(書籍・星圖・星表・年表類)調査の未回答の人に對し催促してゐる故、未回答の人は至急記入支部事務所宛郵送されたし。

◆2月例会開かる

2月8日(土)19時より、土佐堀 Y. M. C. A. にて開會された。支部例会の新らしい試みとして「天文談話會」として、伊達氏より「太陽寫眞觀測の方法と經驗に基きて」、笹部氏「黃道光・對日照及全天に見られる不規則光斑の發見まで」、大口氏「保井(澁川)春海(算哲)の出生地・家系と事蹟に就き」、西森氏より「昔の星座繪の興味と天體實動圖の紹介に就いて」各自の研究を寫眞・表・星圖・資料を列べて30分間宛の談話をなす。その後を「學者に物を訊く會」として、出席者の質疑を百濟・宮森兩先生が應答せられ、19名の出席者は、今一夕に得た天文智識で頭を一杯にし、22時半閉會した。今回に限り山本會長、本部の高城氏等の顔が見られなかつたのは残念であつたが、毎回の例会毎に新らしい支部員の顔を迎へる事は喜ばしい事で、就中遠來の人のある事は頼もしい。今後とも他地方の人々も御光臨下されたい。

大 阪 支 部 4 月 例 會 (一般歡迎)

1. 日 時 4月2日(木)(神武天皇祭前日) 18時半より 時刻厳守
1. 場 所 大阪 Y. M. C. A. (市電土佐堀舟町下車川沿西3丁)
1. 講 話 「星の光度測定に就いて」 理學士 百濟教猷氏
1. 觀望會 同所屋上にて支部員の天體望遠鏡による觀望

(地方の會員方も來阪の節は是非御出席して下さい！)

本部・京都・大阪兩支部合同ハイキングは4月19日(日)別記の如く催されますから奮つて御參加して下さい。

海外の未知の友より

Gadsden, Alabama 4-15-1935
U. S. A.

Dr. K. Nakamura,
Kwasan Obs.,
Yamasina, Kyoto, Japan.

Dear Sir :-A Friend of mine, R. L. Beardsley, Los Angeles, Calif., sent me your name an' I am just another amateur.

I have been exchanging photographs with amateurs and at present I have 70 pictures mostly telescopes, a few others on astronomy. Mine is an 8½" —6 foot tube, 6' 7½" focal length.

Can't resolve much below 2" but can see the three rings of Saturn. Can see the double-double in Lyra, also "gamma" in Virgo is a nice double.

Would like to have you send me some photographs of what ever others may have. I have just finished a 12" tonight.

Hope to hear from you soon.

Yours truly
Brent L. Harrell,
105, N. 10th St.
Gadsden, Ala, U. S. A.

春季合同ハイキング

いざ行かん!! — 春の野へ、山へ。

行先方面 新大阪線富田町驛——阿武山(京大地震観測所)——靈仙寺——攝津耶馬溪——芥川の櫻——高槻町(行程約8軒)

日 時 4月19日(日)

集 合 大阪方面 天 六 9時 [それぞれ出發の上富田町驛10時
京都方面 新大阪京都 9時 [に同流する(時刻は守られたし)

會 費 大阪方面 60錢(割引券) 京都方面 84錢(割引ナシ)

注 意 晝食の用意は各自持参されたし。

歸途は午後4時頃高槻町驛にて解散。

時は春、花は櫻、こゝに我々會員老いも若きも、星を語る友々相集ひ、
楽しき半日を脚にまかせて、溪を渉り、花を尋ね、又見學に夫々この
春を有意義ならしめたい。奮つて御参加下さい。

昭和 11 年 3 月

東 亞 天 文 協 會
大 阪 支 部
京 星 會 ・ 京 都 支 部

新星(?) 発見者より

拜啓 今、先生から御親切なる御葉書を頂きまして感激して居ります。小生永らく御無沙汰致して居りまして、御許し下さいませ。

新星?の発見。でも、今考へると、なんだか土星か何か遊星ぢやあ無いかと心配して居ります。でも土星である筈もないと確信して居りますが、小生、去るヘルクレス座新星出現以後、新星は勿論、他の星に對しても意を注いで居りまして、愈々今年正月より暇も出来て、四分儀座流星群の観測も致しました。今度、東京へ参りまして、少し郊外たる中目黒に居りますため、星も良く見える關係上、毎夕澁谷からの歸りに、薄明中に輝く星を見る習慣になり、毎日晴天なれば見て居りました。19日から22日迄は(発見前日迄)少し用がありまして、6時半頃眺めて居りましたが、23日(発見した日)は未だ西空が明るく輝いて居る頃で、又例の通り眺めますと未だ相當天高くに2つ明るい星が目につきました。僕は、「やれ1番星を今日あそこに見つけた」と喜んでよく眺めて居りまして、何星だらうと次に頭に浮びました。「さて何星だらう。あそこに1等星位に明るい星つて」と考へましたが解りません。「變んだな、よし、1つ調べて見よう」と走つて2町程離れたアパートに走り歸りました。(言ひ落しましたが、星を眺めた所は東横電車の中目黒驛プラットホームで、高架線のため屋根等に邪魔されず、よく全天が見えて居ります。)そして早速古賀恆星圖で調べましたが、何しろ附近の星が見えぬため解りませんので、「では一休み後にしよう。」と思ひ、部屋で友人としばらく話をして、6時半頃に又露臺に出て見ましたら、大分地平線上に近くて、明視が稍困難でしたが、附近の星が良く見えて居りますので、星圖で調べますと南魚の α 星附近なのです。しかし星圖には α 星に並んで1等星が在りません。「變んだな、まさか古賀恆星圖に1等星が書き落してある筈は無い。」ともすれば新星かな。「でも新星は一般に銀河附近に出る筈だが。」と思ひまして、疑ひながら、「でも新星だつたら大變だ、天文臺に早く知らせなくては駄目だ。うん東京天文臺へ電話を掛けようと」スリツパをはいたまゝで外へ飛び出し、早速近所の酒屋さんで電話を借りまして、電話帳を調べましたが、電話番号

が解りません。『こりや困つた、では郵便局へ行けば良いだらうと。』其の足で5丁離れた郵便局へ行きて、調べましたが解りません。『では仕方がない花山へ知らせよう。』電報打つにしても永くなる、何しろ暗號電報が解りません。『では仕方が無い航空郵便で。』と早速其場報告致した通り、簡単に書きまして御知らせ致した次第です。何しろ全く興奮致しまして、手が自由を利かず。字が書けぬので弱りました。

其の時は丁度7時10分頃でした。それから直ぐ歸りまして見ましたが、もう地平線下に入らんとして居りました。星の位置を定めんと色々と附近の4等星を又3等星を見んものとしましたが、悪氣流と近くのネオンの光に邪魔されまして、定まりませんでしたから、 α 星の東方 1.5° の位置になつて居るかもしれません。(報告には西方 1.5°) 色は黄赤色、光度1等、 α 星と新星?の光階差2。(僕の1光階は約1.2等であります)。今小生は新星?か否か?心配で成りません。遊星では無いだらうか?、たゞ新星?否の報告を待つて居ります。(双眼鏡を持つて居りませんために位置決定が出来ません)。

でも先生、新星でせうか?、其翌日は大雪が降りまして、昨夜は晴れて居りましたが、校用の爲見られませんでした。今夜は晴れるでせうから、見るつもりです。早く日が落れば良いが、東京へたゞ1人來て居りますと、友人も無く淋しいもので、遂に友人を星に求めて、毎夜勉強の間を眺める事があります。昨夜もオリオン座の美しい姿を眺めて、神の創造の力を恐れて居りました。ペテルギウスの赤い事、シリウスの強き光、寒さをなほ10倍も100倍も感じさせます。

では発見當時の状態御報告迄 さやうなら 敬具

山本一清先生

京星會東京支部 金田弘倫

金田氏の報告は何かの誤りでありましたが、どうぞ失望しないで、今後も珍らしい事がありましたならば、御遠慮なく御知らせ下さい。キツと、本當の大発見が報はれますから。(山本)

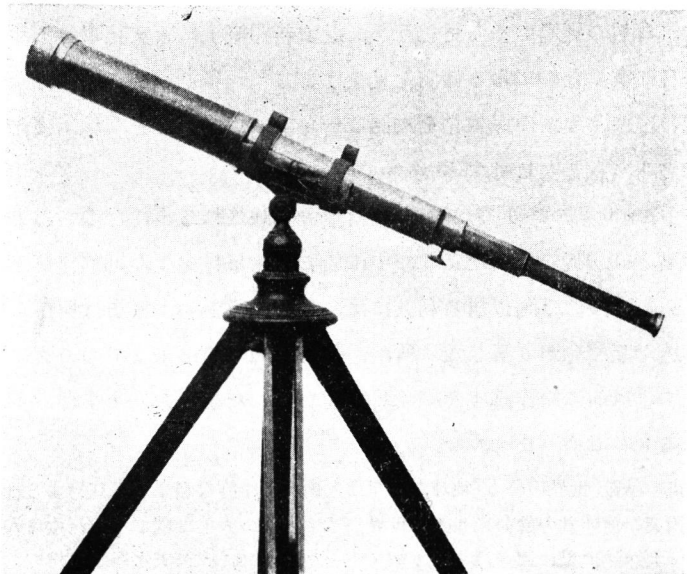
高松の眞屋氏の望遠鏡

(山 本 生)

去る1935年12月18—19日、久米榮左衛門の遺蹟研究のため、香川縣坂出町の鎌田図書館へ出張中、ふと、高松市の眞屋氏が珍しい望遠鏡を持つて居られることを聞いたので、同19日の夕刻、歸洛の途中、高松で中村高商教授及び川六ホテル主人の斡旋により、之れを拜見することが出来た。

見た所、口径 95 mm の地上用望遠鏡で、大きい三脚臺の上に載り、筒には K. Bomkeu, C. P. B. No. 14 といふ銘が入つてゐる。倍率は50倍ぐらゐなものか？

當時、所有主眞屋氏は御不在であつたが、數日後に下の如き書面を頂いた。



寒冷の砌、以先學堂御揃盆々御壯榮の段奉賀候。却説、當日は折角の御來駕小生不在にて何の風情も無之、甚だ失禮仕候。1昨日川六宿の主人來宅、望遠鏡の由來と寫眞を先生へ送り呉れる様申され候につき、入手之由來次の通りに御座候。露國革命の當時、赤兵がモスコイ天文臺より取除き、浦鹽へ持參、現住大阪天王寺高等學校浦原田龍也氏が、其當時浦鹽で貿易商を營み居りしに依り、50000ルーブルを投じて持歸り居りしが、小生が昭和元年より譲り受けを交渉致居候處、漸く昭和5年に至り成立致し、8月小生に譲受けし品に御座候。以來、香川縣各方面にて、10000人程に天體を視せ申せし次第に御座候。

重量及び寸法は別紙へ記載致し候間、御一覽被下度候。先づは要用のみ。

改年早々寫眞に取りて御送り申上べく候。草々

12月25日

高松市大工町6 眞屋 卯吉

山本一清先生

通 信

拜啓 御送附の天界1月號正に受取りました。甚だ御手数をかけまして申譯ありません。早速最初の1頁から最後の1頁に至るまで、時の過ぐるを忘れて讀みました。曇りがちである臺北の夜空を飾る星々の輝きにも春めいた暖かい感じが増して、下界の觀測者に獨特の面影を偲ばせてゐます。

全世界の注意を集めてゐる6月の日食で、我が天界は大に賑はつて居り、甚だ嬉しく感じられると共に、此の機會に、諸先生の更なる御健闘を期待して止みません。

さて、自然の經過でありませうか、近頃新聞紙上に天文記事の占める面積が日に日に廣くなつてゐる傾向を見受けまして、獨り欣快の感に打たれますが、此の現象は天象の民衆化を物語る一面ではないかと思はれ、諸先生の御努力に感謝の意を表します。

近い中に「世界の終り」といふのが當地で上映される事になつてゐます。之は“天界”169號の花山だよりの中に於ても、星見先生の御紹介がありましたが、あの時は、臺灣に居る私共には、到底觀賞といふ機會は與へられまいと思ひ込んで残念がりました。所が、今日、國際館に來ますので大に喜んで居ります。以前に原作譯本を一寸目を通しました事がありますが、多分興味津々たるものでありませう。

宇宙の動亂「世界の終り」地球と彗星の大衝突、冷靜な科學者も狂喜する彗星と地球の衝突眼前90日の餘命に我々の世界は？ 人間の大能は喘ぐ！ 深遠な人類愛も凄慘一大焦熱地獄に遭へば——カミ！ユ・フラマリオンの天文學說に據りて、名匠アベル・ガンヌが描く超想像の混沌世界！ 觀る人の髪膚も焼け爛れやう！

西窓を通して、群星を従へるオリオンの雄姿が落ちて行くのが見えます。

敬具

1936年2月18日

臺北高等學校 吳 招 唐

1936年度の長週期變光星豫報

米國變光星觀測者協會部より、本年度の長週期變光星387個の極大及び極小の豫報が到着した。詳細を知りたい人は花山に問合はされたし。(花山急報第195號)